

令和3年度 施設としての自己評価

千代田 おひさまの森保育園

平素は千代田おひさまの森保育園の運営にご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。
以下の通り、園の自己評価を付けました。今後一層より良い園になるよう職員一同努力してまいります。

【1】どちらかというとできていなかった 【2】どちらかというとできていた 【3】ほぼできていた 【4】よくできていた

年目標	自己評価	内容
●保育内容(今年度の重点)		
・愛着についての理解と愛着形成の実践	3	愛着関係について、会議や昼礼を通して全職員で理解を深めていくことができた。合同保育も多いため、チームで連携してより良い援助ができるように、個々の愛着関係の相関図を共有し合える時間を定期的を持つことができた。また、発達や環境の変化により、どう愛着関係が変化していったかも都度共有することで、個々の発達に合わせて援助をチームでできていた。
個々の愛着関係について援助方針から経過まで共有していく。		
・子どもの意欲を伸ばす声掛けの検討と実践	4	子供の機能発達を理解し分析したうえで、どんな声掛けがその子の意欲や主体性の向上につながるのか職員で話し合う時間を持つことができた。実際に、各職員が実施し、その結果どうであったかまで共有することで、様々な職員の視点から最善を考えることができていた。
ただ声をかけるだけではなく、子供の主体性を伸ばすことができるよう、個々の発達を捉え、チームで最善の声掛けができるように都度話し合う。		
●施設設備		
・保育室環境について	4	年度の前半の自由保育では、1,2歳児の合同保育をメインに考えていたが、後半では集中して机上遊びに取り組みたい子、体を動かしたい子、おままごとを友達や保育者と楽しみたい子、など発達に合わせた遊びや好きな遊びが保証されるようにコーナー設定をしたり、部屋で分けるようにした。その結果、子供たちの意欲が増したり、遊びに対する主体性が伸びたように感じた。
夕方自由保育の環境を子供たちの発達の分析と合同保育のあり方を考えて設定していく。		
・園周辺環境の活用について	2	昼礼の時間を活用して、園周辺の地図を用いて日々の散歩のルートを見直す時間を持って行った。散歩中に気付いた点を共有し合い、ルートの改善を行ったり、子供の発達に合わせて適切な目的地を再検討していった。節目での実施になってしまい、定期的にはできなかったため、次年度は時期を決めて実施していけるようにしたい。
危険個所の見直しを定期的に行っていく。		
●保健・衛生		
・感染症対策について	4	風邪のひき始めから全職員が認識できるため、拡大防止やその子自身の体調を考えた活動、衣服調節、保護者への共有がどの職員でもしやすくなった。記録があるため、感染所についての潜伏期間もわかりやすくなった。
子供たちの初期症状から体調の変化を記録し職員共有していく。		
●運営		
・行事のありかたについて	4	新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くことがなかったため、安全に配慮した上で今出来る最善を常に話し合っていた。あらゆる状況を想定した上で、どうあるべきかを考える中で何を届けていきたいのか、どんな子どもたちの成長が見られるのかをベースにその時々合わせた企画がなされていた。
子どもたちの今の成長や行事ならではの姿を届けることができるよう環境に		
・保護者との連携体制について	3	些細なことも職員間で共有し合い、援助方法や結果まで報告することでどの職員でも同じや目標で成長を感じ、勤務状況関係なく保護者の方に届けていくことが出来た。また、様々な職員の視点から最善の援助を考えることも出来たため、偏りが生まれることも少なかった。また、今年度は保育のわらいについて保護者の方へ届けられるよう玄関にボードを用意して毎日記載していくことで、何のために保育を行っているのか職員も再確認でき、保護者の方にも届けることができた。
職員間での情報共有を行い、共通認識の下園全体でサポートしていく。		
・危機管理について	3	毎月1回昼礼にて、1ヶ月間の中で怪我には繋がらなかったが、危険だと感じたヒヤリハットについて全職員で共有し合う場を設けていった。自分だけでは気づくことができなかった視点を知るきっかけになり、そこから全体で対策を考えて保育や環境に反映させていくことも出来た。その場で報告、職員同士の声掛け、共有が徹底できるように意識を高めていきたい。
危険が予測された状況を毎月共有し合い、改善できるところは都度見直していく。		

【総評】

平素より園へのご理解とご協力、誠にありがとうございます。6年目を迎え、毎日子どもたち・保護者様が通ってくださっていることに感謝しております。本年度は、根拠に基づいた保育を全職員共通認識の下で行っていけるよう話し合いの場を多く設けてまいりました。プロとして根拠に基づいて考えられるよう、年間の保育計画や発達に沿って、個々の成長に合わせた最善の援助やねらい立てが出来るよう、分析や検討を重ねていきました。家庭とも連携していけるよう、保育の中でどこにねらいを置いてどんな援助をしていくのか一緒に考えたり、その結果園ではどんな姿が見られたのか細かくお子様のがんばりや様子をお伝えしていきました。来年度もプロとして、子どもの発達を捉え、分析し、根拠を持った援助が行えるよう全職員学びを通して、一層尽力して参ります。今後ともよろしくお願ひ致します。

令和4年3月1日

園長 巻本 葉奈

上記の園自己評価の結果を掲示とともに開示させていただきます。尚この掲示は3/1から来年度4/末日まで開示します。